

ひらかわ あらた  
平川 新

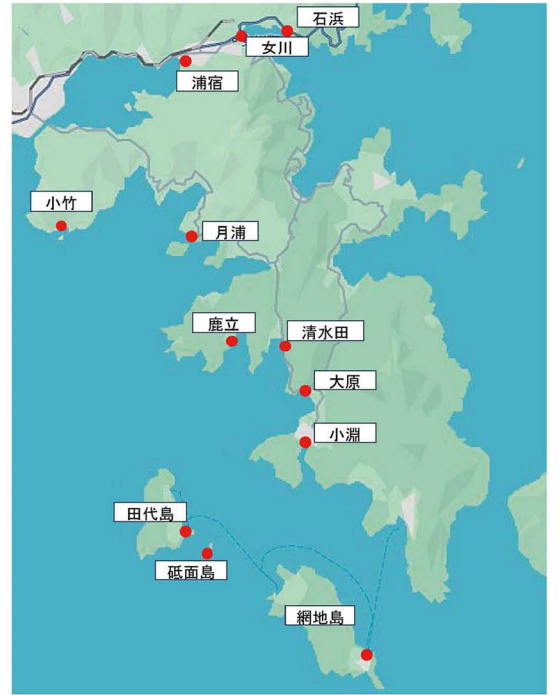
宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

未来への航路

牡鹿半島の  
スペイン語地名

マニラからメキシコに向かうスペイン船の寄港地を探すため、ビスカイノは徳川家康と伊達政宗の許可を受けて、仙台領内の港湾調査に向いました。塩竈から出発して松島、石巻を見て回り、牡鹿半島に入ります。ビスカイノによれば、コンタキ、チキムラ、ギンダズ、複数の島、イシバマ、ウラジの六か所がスペイン船の停泊が可能な港、あるいは良港だと記されています。すべての浜を視察したということでもなさそうです。で、地元民や藩の役人の案内で、太平洋から

寄り付きのよきそうなる浜々を見て回ったのでしよう。



ビスカイノ探検の(推定)地名一覧(牡鹿半島)

問題はスペイン語で表記されたこれらの地名はどこか、ということ。地元の案内者が言った地名をビスカイノが聞き取った発音ですので、どういう地名なのか、わかりにくくなっています。基本になるのは、最初に『ビスカイノ金銀島探検報

『仙台市史 慶長遣欧使節篇』、遠藤光行氏などから地名の一部について異論が出されています。

あることは間違いないでしょう。昼夜を問わず入港できるので航海誌に記すために測量したとありますので、かなり寄り付きのよい島と評価したようです。

②4ビスカイノ、牡鹿半島を回る

告(昭和16年)の翻訳を出版した村上直次郎氏の解釈です。しかしその後須藤光興氏、

ビスカイノが書きとめた地名とコメント、それと各氏の地名の解釈を一覧にして表にまとめてみました。これをもとに検討してみましよう。

その後、牡鹿半島の南端と金華山の間海峡を抜けてウナンガワに泊まりました。発音からみて女川(オナガワ)でまちがいないでしょう。この入江にはイチバマとウラジという良港があると書いています。イチバマは石浜でよいと思います

小竹から女川まで

最初のコンタキ(またはコンダケ)は、いずれも小竹浜という解釈で一致しています。1千ト以上の船の停泊が可能だとしています。から、太平洋を行き来していたスペインの大型ガレオン船でも十分に停泊できると見込んだようです。

しかし、浦宿は女川湾ではなく、万石浦のもっとも奥にある地名です。女川の隣接地ですが、海路で行くことはできません。探検のルートからいっても女川から陸路で浦宿に向かったとは考えにくいので、ウラジを浦宿とするのはむずかしいのではないのでしょうか。

ビスカイノ探検の地名一覧(牡鹿半島)

Table with 8 columns: Spanish name, Pronunciation, Spanish name, Bay status, Murakami, Mustu,仙台史, 遠藤史. Rows include Condaque, Chiquimora, Guindazu, Onbara, Cubruchi, Urangana, Ichi-bama, and Uragi.

出典: 村上直次郎『ビスカイノ金銀島探検』(異国叢書、駿南社) 須藤光興『伊達政宗の黒船』文芸社ビジュアルアート 同『ビスカイノの三陸沿岸調査』(西田耕三『セバスチャン・ビスカイノ金銀島探検記』耕風社) 『仙台市史 慶長遣欧使節篇』 遠藤光行『「つきのうら」の真実』番山房 \*各説で村上説に異論がない場合は空欄にしている



ひらかわ・あらた 昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26-31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館館長に就任した。